

## OmniPass Enterprise Edition V3

### 製品紹介資料

2016年2月

第1版

ラトックシステム株式会社  
システムソリューション事業部

1. はじめに	2
2. システム概要	2
3. 製品型番、対応OS	3
3-1. OmniPass EE型番	3
3-2. サーバー対応OS	3
3-3. クライアント対応OS	3
4. 主な機能	3
4-1. 指紋情報のサーバー一元管理	3
4-2. パスワード代理応答	4
4-3. フォルダ/ファイルの暗号化	5
4-4. 暗号化したフォルダ/ファイルの共有	5
4-5. 共有ファイルのメール送信	5
4-6. イベントログの管理	6
4-7. 認証デバイスについて	6
5. 製品形態、ソフトウェアライセンスについて	6
5-1. 標準価格	6
5-2. ソフトウェアライセンス	7
5-3. 保守サービスについて	7
6. 使用事例	8
6-1. 指紋登録、認証の流れ	8
6-2. 管理画面	8
6-3. 指紋認証を強制する	9
6-4. 暗号化したファイルを持ち出す	10
6-5. ログオン可能端末を制限する	10

## 1. はじめに

企業にとってあらゆる情報の漏洩は、いまや企業内の問題ではなく、社会問題としても重要視されております。

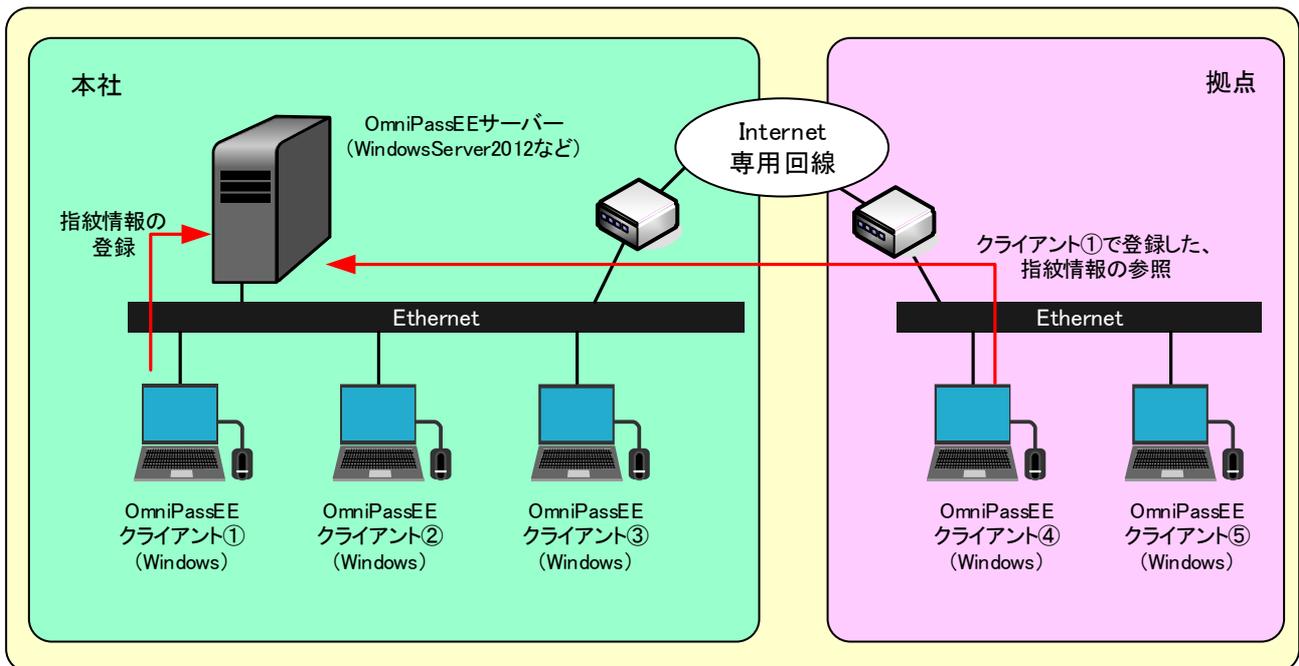
クラウドサーバーや3G/LTE網が安価で充実したサービスが提供され、様々な用途や場面で膨大なデータがInternetを経由して受け渡しされております。

これらのデータはいつ、どこからでもアクセスできるメリットがある反面、不正アクセスに対する危険性は高くなる一方です。

OmniPass Enterprise Edition V3 (以下OPEE3) は、社内ネットワークへのアクセスを指紋による認証システムに置き換え、なりすましアクセスができない強固なセキュリティ環境を構築します。同時に指紋情報を一元管理することにより、ユーザーの利便性は向上し、管理者はユーザーそれぞれに適した設定が簡単に、かつ詳細に設定することが可能となります。



## 2. システム概要



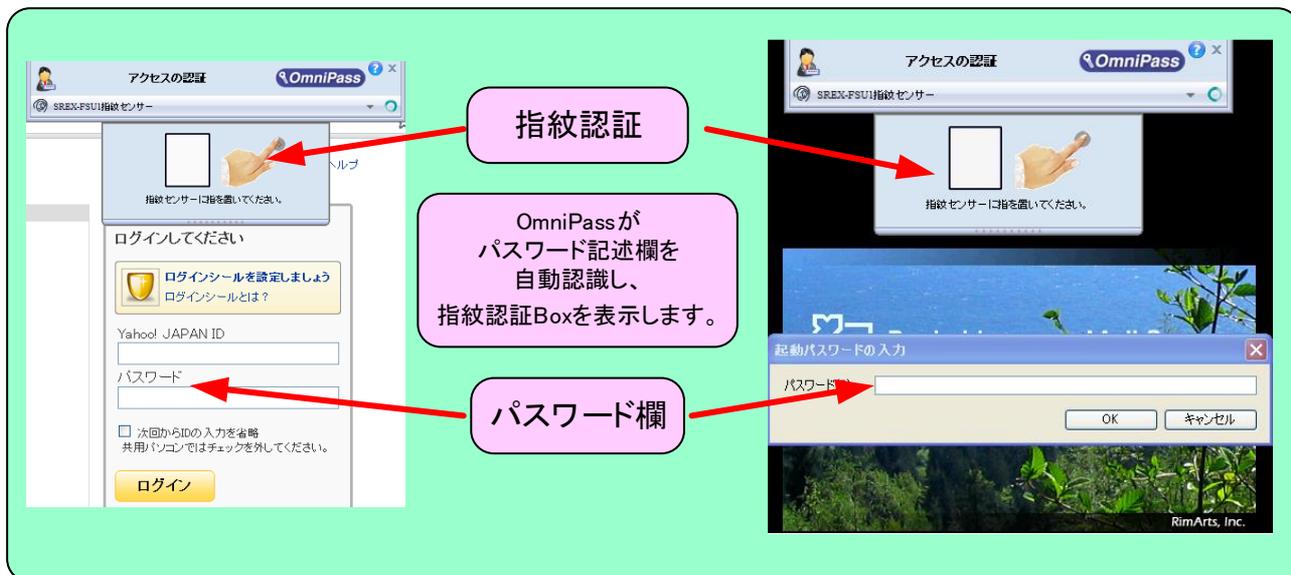
- ・ OPEE3サーバー用ソフトウェアをインストールしたWindows Server (OPEE3サーバー) と OPEE3クライアント用ソフトウェアをインストールしたWindows PC (OPEE3クライアント) で構成されます。
- ・ 指紋認証データはOPEE3サーバーで一括管理されます。ネットワーク経由でサーバーが認識できれば、どのOPEE3クライアントからも指紋認証が可能になります。
- ・ 指紋認証を使用して下記機能を実現します。
  - ・ Windows ログオンパスワードの代理入力
  - ・ パスワード付きwebページやメールアプリケーションなどの起動時パスワードの代理入力 (Webページのパスワード代理入力はInternet Explorer環境のみ対応。また、全てのWebページ、アプリケーションに対応するものではありません。)
  - ・ ファイル/フォルダーの暗号化
- ・ OmniPassEEで指紋認証を行うユーザーに対して様々な権利設定を行うことが可能です。



#### 4-2.パスワード代理応答

Windowsログオンやwebページ、スクリーンセーバー解除、各種アプリケーション起動など様々なパスワードを指紋認証で代用することが可能です。

また、管理者は一般ユーザーに対し、指紋認証を行うアプリケーションの追加可否を設定可能です。



その他、様々なアプリケーションのパスワードを指紋で代用することが可能です。

1度登録を行えば、そのアプリケーションが起動と同時に指紋認証ウィンドウが起動します。



Remote Desktop

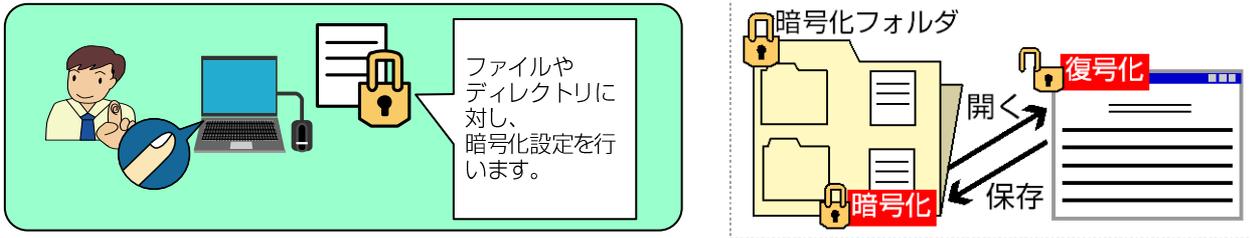


BitLocker

※全てのアプリケーション及び、Webページで指紋認証をサポートするものではありません。

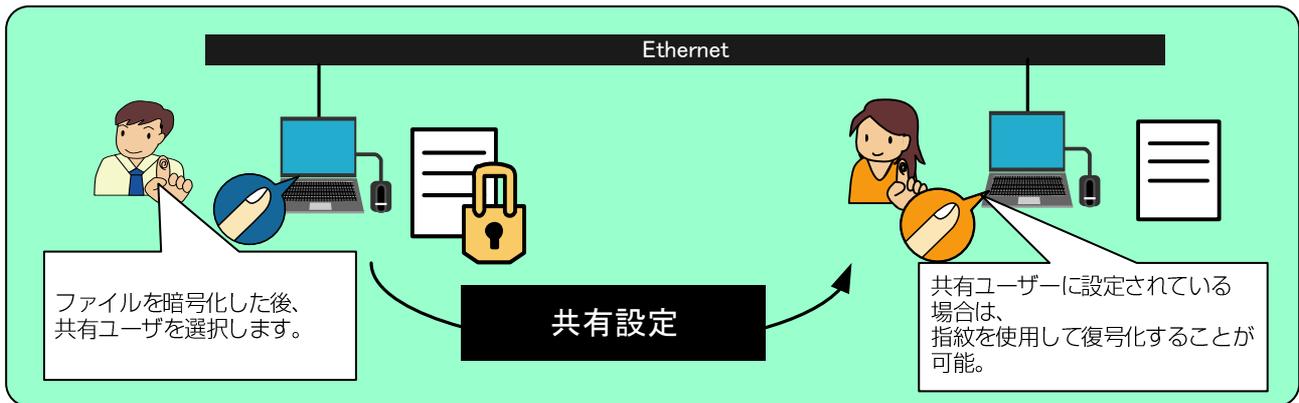
#### 4.3.フォルダー／ファイルの暗号化

- ・ファイルサーバーに保存されているフォルダー（またはファイル）を暗号化することが可能です。
- ・復号を行う際には指紋による認証を要求されるため、暗号化を行ったユーザー以外はそのフォルダにアクセスできません。
- ・暗号化フォルダーを設定した場合は、そのフォルダにファイルの出し入れを行う時に暗号化・復号化を行います。



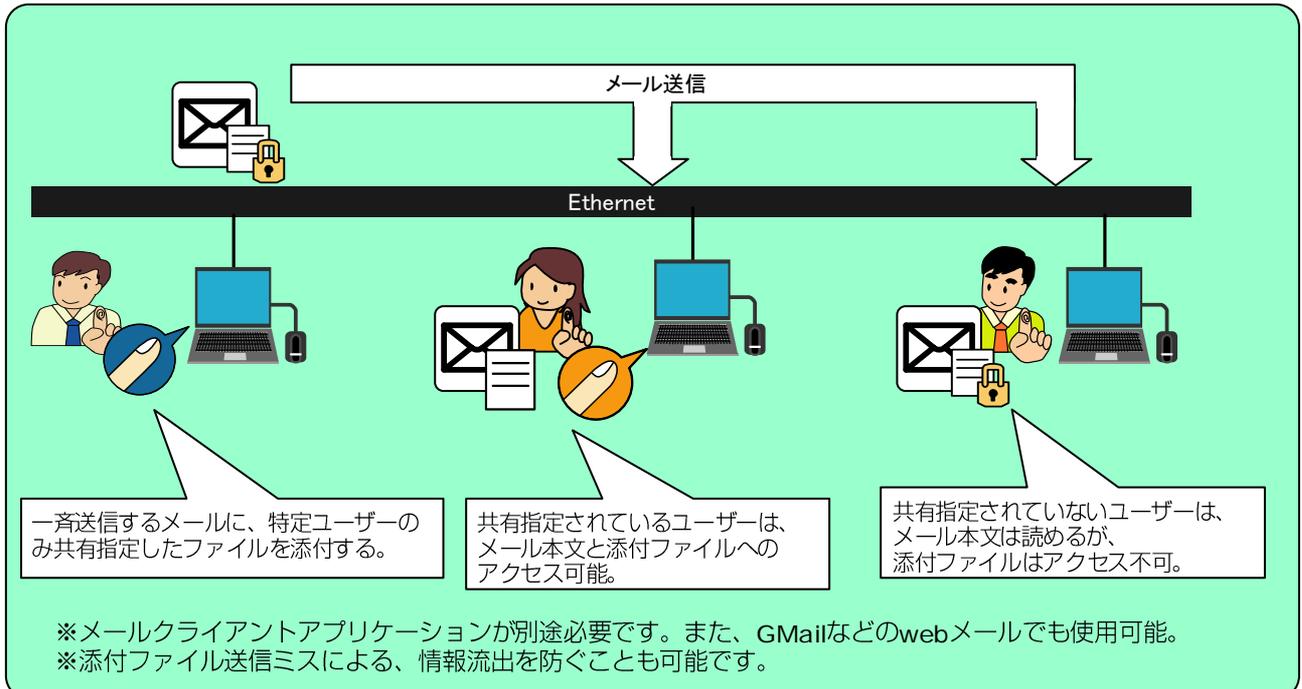
#### 4.4.暗号化したフォルダー／ファイルの共有

- ・上記の手順で暗号化を行ったフォルダー（またはファイル）を自分以外のユーザに、復号を許可する（共有）設定が行えます。暗号化を行ったユーザーが、自分以外で共有したいユーザーを登録ユーザーから選択します。



#### 4.5.共有ファイルのメール送信

- ・上記の手順で暗号化・共有を行ったファイルをe-mailの添付ファイルとして、送信することが可能です。



#### 4-6. イベントログの管理

- 指紋の登録や認証、指紋を使用した暗号化、復号化など指紋認証を使用したイベントのログ管理が可能となります。
- イベントログはWindows のイベントビューアーの【OmniPass】項目から確認が可能です。
- ユーザ単位でイベントログ記録有無が設定可能です。  
また、どの端末（サーバーまたはクライアント）にログの記録を行うかが設定可能です。
- クライアント単位でのイベントログ記録有無も設定可能です。  
また、どの端末（サーバーまたはクライアント）にログの記録を行うかが設定可能です。



#### 4-7. 認証デバイスについて

- 対応済み指紋認証デバイスは
  - SREX-FSU3（スワイプ式センサー）
  - SREX-FSU2（スワイプ式センサー）
  - SREX-FSU1G（エリアセンサー）
- SREX-FSU1/FSU1Gは販売完了品です。
- OmniPassEEV3の対応環境で、SREX-FSU1/FSU1Gがご使用いただけるOSはWindows7 32bitのみです。  
また、WindowsServerではご使用いただけません。



SREX-FSU1/FSU1G  
USB接続 エリア式センサー  
(販売完了品)



SREX-FSU3  
SREX-FSU2  
USB接続スワイプ式センサー

#### 【Appendix】

- クライアントOSとしてWindowsVistaがご使用いただけます。
- WindowsVistaで使用する場合、前バージョンであるOmniPassEEV2のクライアントソフトウェアが必要となります。入手方法はサポートセンターまでお問い合わせください。
- 認証デバイスはSREX-FSU2（32bit,64bit両対応）とSREX-FSU1/FSU1G（32bit環境のみ、販売完了品）がご使用いただけます。

## 5. 製品形態、ソフトウェアのライセンスについて

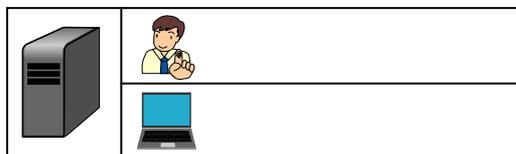
### 5-1. 標準価格

製品型番	製品内容	標準価格(税抜)
SREX-OPEE3-SP	OmniPass Enterprise Edition Server Software	¥150,000
SREX-OPEE3-CL5	OmniPass Enterprise Edition Client Software 5License	¥40,000
SREX-OPEE3-CL10	OmniPass Enterprise Edition Client Software 10License	¥70,000
SREX-OPEE3-CL25	OmniPass Enterprise Edition Client Software 25License	¥150,000
SREX-OPEE3-CL50	OmniPass Enterprise Edition Client Software 50License	¥250,000
SREX-OPEE3-CL100	OmniPass Enterprise Edition Client Software 100License	¥400,000
SREX-FSU3	USB接続スワイプ式指紋認証システムセット	¥17,800

## 5-2.ソフトウェア・ライセンス

- ・1台のサーバにはサーバーソフトウェアライセンス1つと、クライアントライセンス1つが必要になります。
- サーバで起動するOmniPassも1つのクライアントとしてライセンスを消費するためです。
- サーバ側で消費するクライアントライセンスはサーバー用ソフトウェアセットに含まれています。
- ・クライアントライセンスは、【登録ユーザー数】と【登録端末数】で、登録数の多い方の数だけクライアントライセンスが必要になります。

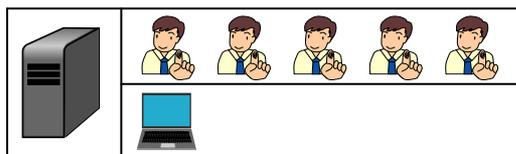
### 5-2-1.サーバー1台、登録端末10台、登録ユーザー数10人



#### 製品構成

- ・ SREX-OPEEV3-SP x1
- ・ SREX-OPEEV3-CL10 x1

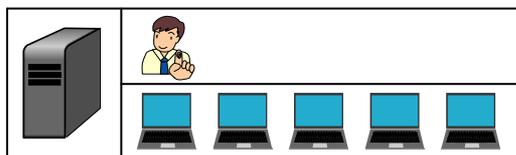
### 5-2-2.サーバー1台、登録端末10台、登録ユーザー数50人



#### 製品構成

- ・ SREX-OPEEV3-SP x1
- ・ SREX-OPEEV3-CL50 x1

### 5-2-3.サーバー1台、登録端末50台、登録ユーザー数10人



#### 製品構成

- ・ SREX-OPEEV3-SP x1
- ・ SREX-OPEEV3-CL50 x1

## 5-3.保守サービスについて

保守サービスの概要を下記に示します。

- ・各アプリケーションにバージョンアップが発生した場合の更新ファイルの案内と提供を行います。
- ・指紋センサー用デバイスドライバーがバージョンアップした場合の更新ファイル提供を行います。
- ・指紋センサー障害時の即日発送を行います。（17:00まで受付分。それ以降は翌営業日発送）

※下記はサービスに含まれません。

- ・インストールやユーザー固有の設定に関する作業。
- ・データの復旧作業、障害データの復旧作業。
- ・本システム以外の機器及びソフトウェア等に起因した障害対応。

上記内容を、1年間で販売価格の10%にて対応させていただきます。

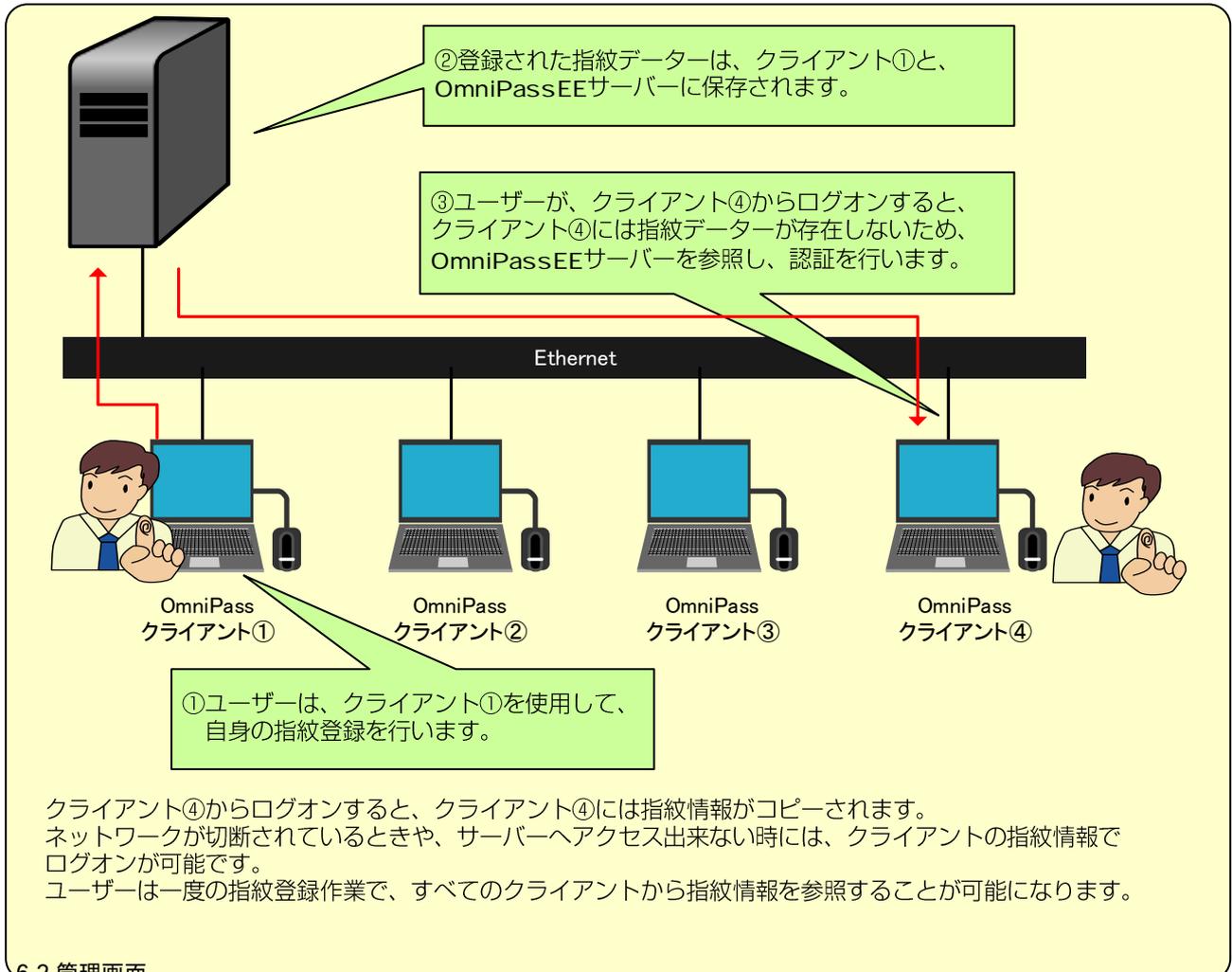
詳細な内容については、双方で検討し、保守サービス時に締結します

【OmniPassEnterpriseEdition保守サービス契約書】に記載することとします。

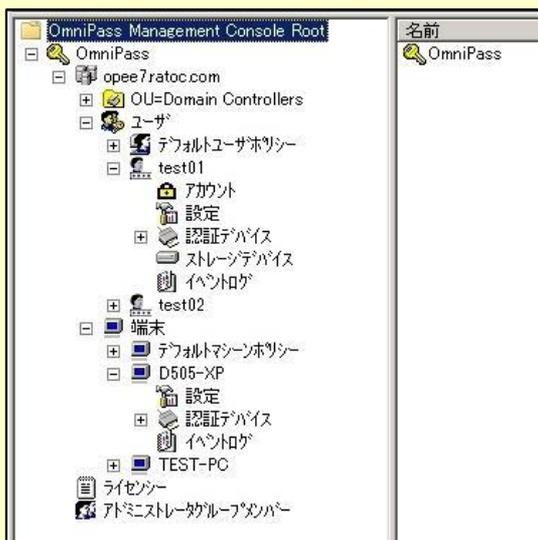
## 6. 使用事例

### 6-1. 指紋登録、認証の流れ

OmniPassEEサーバー



### 6-2 管理画面

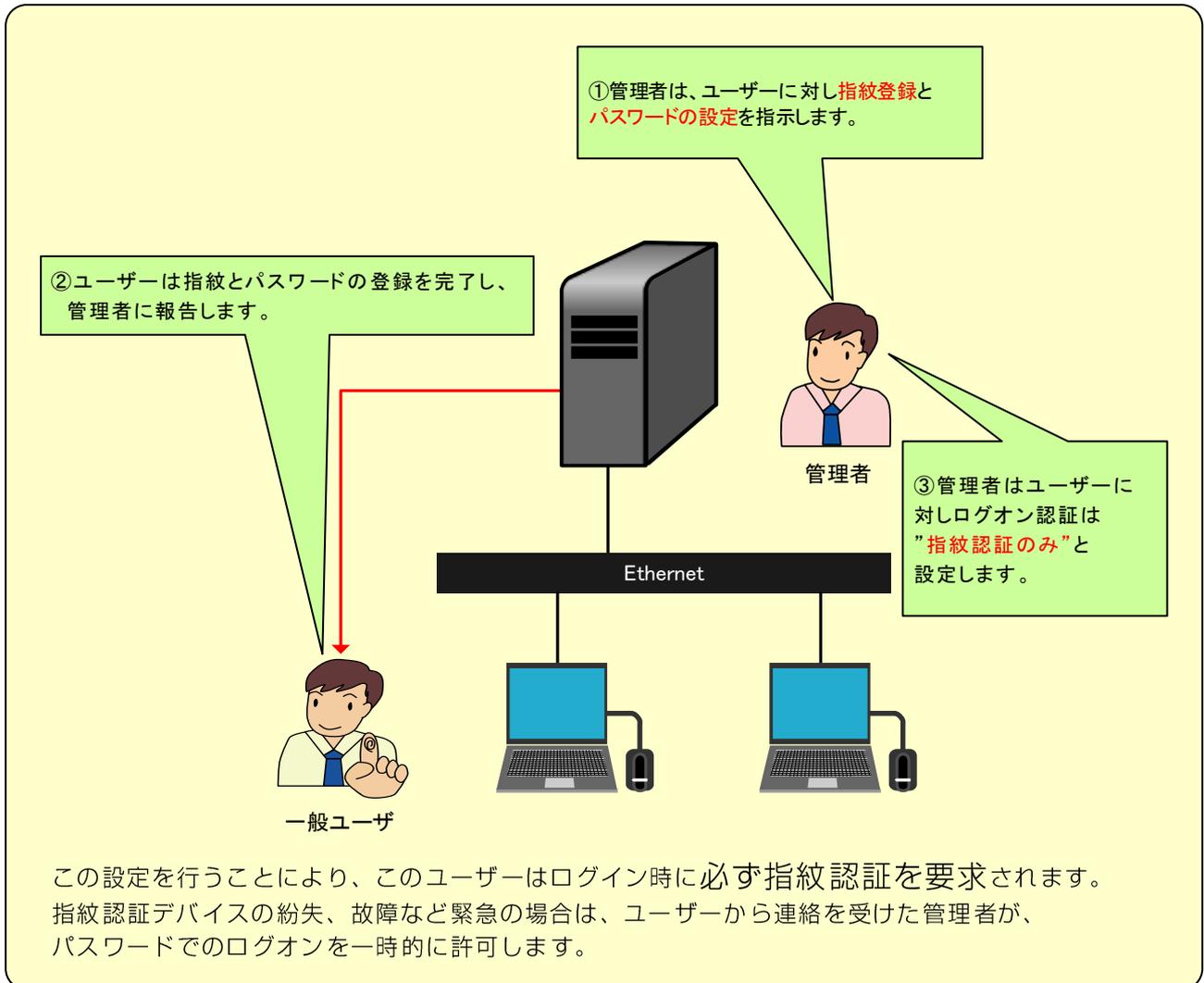


ユーザーや各クライアントPC（端末）の情報は、ツリー構造で表示され各情報がわかりやすく表示。

イベントビューアーは、Windows標準ツールの項目として追加されます。特別な操作方法を覚える必要無く運用が可能です。

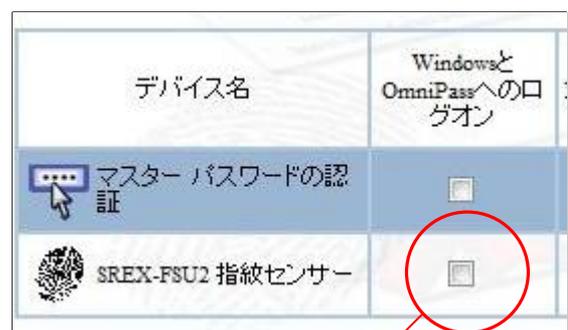
### 6-3.指紋認証を強制する

ネットワーク資源に対する認証方法に “指紋認証のみ有効” の設定を行い、セキュリティをより強固に設定することが可能です。



#### 【Appendix】

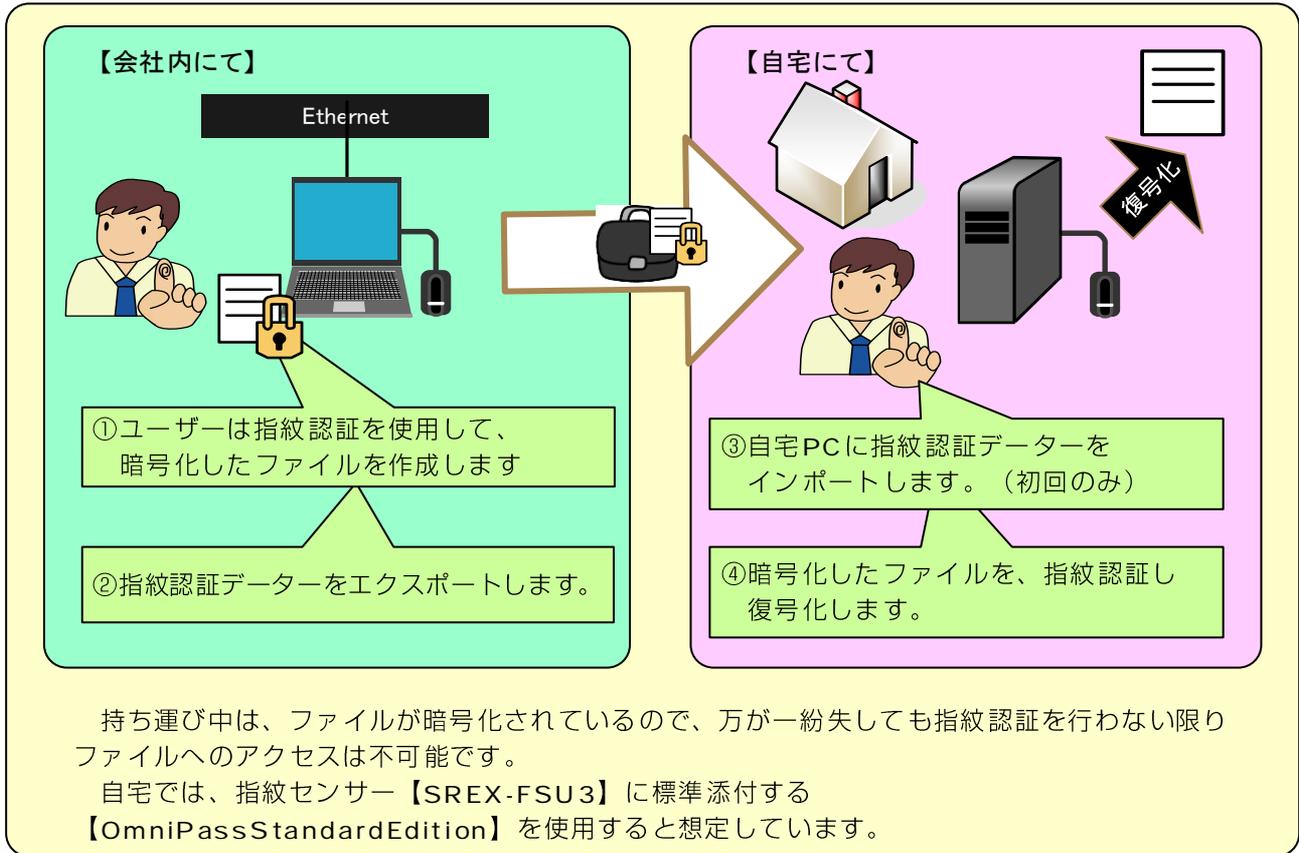
- ・どのような認証方法を許可するかユーザー単位に設定します。  
認証方法は以下の3通りから選択します。
  - +指紋認証でのみ認証を許可する。
  - +指紋認証またはパスワードの認証を許可する。
  - +指紋認証とパスワード両方での認証を必要とする。
 この設定はサーバー、クライアントどちらからでも設定可能です。
- ・この設定はユーザーに対し行うもので、そのユーザーがどのクライアントを使用する時でも有効となります。
- ・管理者はこの設定をユーザー自身で変更することを許可するか、または許可しないかを設定します。この設定はサーバー側からのみ設定可能です。



この項目にチェックマークを入れると、そのユーザーはWindowsログイン時にSREX-FSU2指紋センサーの認証が必須になります。

#### 6-4.暗号化したファイルの持ち出す

OmniPassEEでは指紋情報を使用したファイル/フォルダーの暗号化をサポートしており、暗号化したまま、ファイル/フォルダーを持ち出し、家庭のPCで復号化などの作業が可能となります



#### 6-5.ログオン可能端末を制限する

特定のユーザーに対し使用できる端末を限定することが可能です。  
この設定はActiveDirectoryの機能で、OmniPassEE固有の機能ではありません。  
OmniPassEEを使用した指紋認証ログオンでも、ActiveDirectoryでの設定が有効になります。

ActiveDirectoryの登録ユーザー画面より設定します。デフォルトは全ての端末でのログオンが許可された状態ですので、端末制限の設定を行いたい場合は、ログオンを許可する全ての端末名を登録します。

ログオンできるワークステーション

[コンピューター名] (コンピューターの NetBIOS またはドメイン ネーム システム (DNS) 名を入力してください)。

このユーザーがログオンできるのは:

すべてのコンピューター (C)

次のコンピューター (D)

コンピューター名 (C):

vista-pc

test-pc

追加 (A)

編集 (E)

削除 (D)

このアカウントでは、このコンピューターを使用できません。別のコンピューターを使用してください。

OK

ログオンを許可する端末名を記述します。  
この設定を行った後リストアップされていない端末からログオンを行うと上記のエラーが表示されます。